

# 一般質問通告書

受領日時 令和 3年 5月31日 午前 9時50分

8番 氏名 畑澤洋子

質問項目	質問の要旨
1 一人も置き去りにしないワクチン接種事業を	<p>① キャンセルワクチンの処分と活用で物議をかもした。無駄にせず自治体の裁量で活用すべきだ。「コロナワクチンもつたいない登録」で希望者を募る市町村もある。公平な活用とするため町でも応募を募ってはどうか。その際、高齢者が自分で理解できるよう文字を拡大した印刷に留意を。</p> <p>② 高齢者の中には難聴で耳の聞こえが悪い人・白内障や緑内障で視力の悪い人も多い。ワクチン接種の封書が届いても町から予約の誘いの声がかかるのを期待する人もいる。未曾有の事業の完結の為、町内会組織の区長、班長を総動員しワクチン申込みと接種完了までを支援して頂けるように、町長から要請を。</p> <p>③ 秋田市では学校や教育施設（幼稚園、保育園、認定こども園）の教職員5,800人に抗原検査キットを無料配布する。無症状の感染者を早期に発見し学校や施設内での感染を防ぐ狙いと。町でも対応を。更にスキップが大事な保育士に早めのワクチン接種の考慮を。</p>
2 スポ少支援に体育館使用料の無料化を	<p>① 部活動とスポ少は違うとしても、町の子供たちが一つの運動に切磋琢磨し、精神的、肉体的に健全な成長を果たす為の一助であることには変わりない。町のスポーツ少年団支援事業で1団体2万円を助成し、支援していることも承知している。しかし井川、八郎潟、大潟ではスポ少でも町村の体育館は無料だ。コロナ禍2年目の社会情勢からみても子供たちのスポーツ環境に優しい配慮をしてはどうか。</p>
3 特定健診がん検診の受診率アップを	<p>① 昨年コロナ禍の検診受診率は全国的に落ち込んだ。日本対がん協会では年間1,100万人のがん検診受診者がおり13,000人近くの新しいがんを発見している。昨年の受診から計算すると4,000人から5,000人のがん発見がなされていない状況。足の速いがんは進行がんで見つかる懸念している。今年の検診では、受診者増に向け必死の検診の企画をお願いしたい。</p>

4 廃校をキャンプ場にして好評な自治体がある。友愛館に新たな活用（キャンプ場）を加えてはどうか

① 「子供会の行事」は親の親睦を深め地域の結びつきも深める機会だった。それは信頼関係を結び地域を巻き込んだ防災減災のための町内会や消防団へとつながることも含んでいた。近年、廃校をキャンプ場に改修し好評を得ているところもある。町外に行かなくても貴重な体験ができる場所が必要だ。県外の客も期待できる。何も持たずに来ても食材がそろそろ直売所と収穫体験などを、季節ごとに経験できる施設として地元農家に依頼し連携してはどうか。